

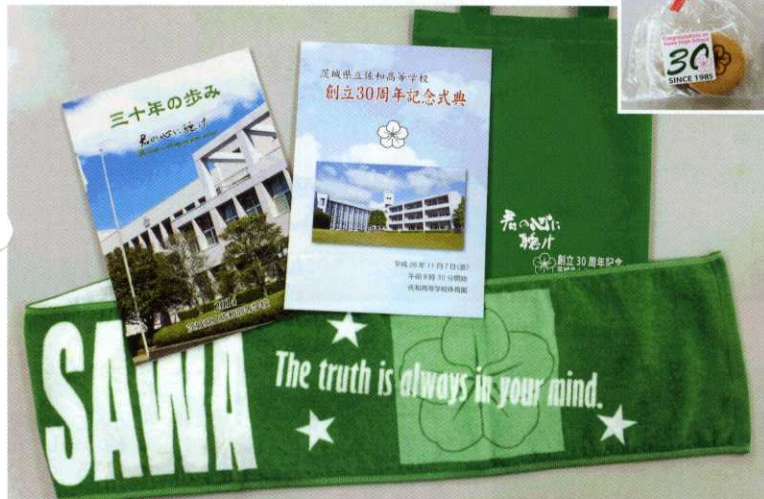
ちなみに筆者は、第一回卒業生。この会場の中で、二十九年前の創立記念式典に出席した唯一の人物ではないかと、思いを巡らせておりました。母校が変わらずにここにあり、そして、あの日の空も、今日の空も我が母校を変わらずあたたかく包み込んでくれているようで、それがただ嬉しく思えた一日でした。



そして最後は、柴田さん、皆神さん、吹奏楽部とのコラボレーション演奏です。それはもう圧巻でした。違う時代とはいえ、同じ場所、青春時代の数年間を過ごした者同士の心と心のハーモニーがここにはありました。それぞれの道でひたむきな努力を続け、立派に活躍している同窓生たち。その姿を知ることが出来たことは、現役の生徒達にとっても私達同窓生にとっても大きな励みとなることでしょう。



絵画『SAWA』
横須賀 幸男先生



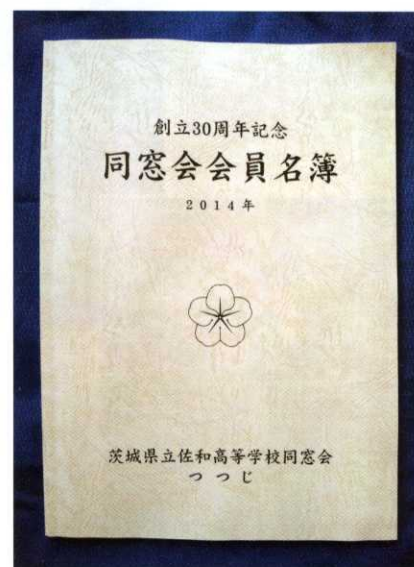
記念誌、パンフレット、バッグ、
タオルマフラー、校章焼き印入りクッキー



学習室 個別ブース



校内用ポスター



同窓会名簿

最後に、創立三十周年に際しての同窓会記念事業として、学習室へのエアコン設置(二台)、同じく学習室への個別ブース設置(十席)、三十周年同窓会名簿の発行を行いましたことをご報告致します。

卒業生近況報告

「古き良きもの」そして「生まれるもの」

音楽は素敵だ。

なぜならソレを聞くだけでその時代にタイムスリップできるから。

人は何かに憧れ、影響され、何かになりたいたいと思う。

その自分のRootsとなる部分はとても大きい。

私自身、歌手になりたいと思ったのは家族の音楽好きがRootsの様に思う。

『音楽は人生の目次』と誰かが言っていたように

まさに、その頃の音楽を聴くだけで、まるで匂いまでも蘇るようなそんな気持ちになることがある。

音楽では『サンプリング』と言って元々の曲をベースにアレンジすることがある。

自分の好きな曲、思い出の曲、大切な曲、、はたまた嫌いな曲、などを元にリメイクするのだ。思い入れのある曲だからこそ、また形を変えて蘇り、誰かの曲が自分の曲に変わる。その瞬間は何度経験しても新鮮で刺激的な幸せの時間だ。

Vintageとは素敵な言葉で、大切に語り継がれていくからこそ、その重ねた時間がそのものを美しく彩る。

素晴らしい音楽がいつの時代に聴いても素晴らしいように、..。

色褪せることは決して悪いことばかりではなく、そのものの魅力でもあるのだ。

一つのものに魂を込めるのは何も音楽に限った話ではない。

現在の魅力は過去の積み重ねがあるから。また、その現在が輝けるのは過去の積み重ねた時間が素晴らしい、また大切にされてきたから。そして現在もまた未来のために素敵な時間を重ね続けているのだ。

そんなことを感じた佐和高校の30周年式典。

まだまだ30年、しかしその30年に込められた思いを現場で感じられたことを心から幸せに思う。

佐和高校は私のRootsの一部。

あの時代がなければ今こうしてStageで音楽を奏でることにはなかったかもしれない。

古き良きものを愛おしみ、また新たなものを生み出す。

そしていつの日かソレが誰かの古き良きものとなるように、..。

時を重ね、そしてまた新たなものを生み出し続けていきたい。

第15回（平成14年3月）卒業 柴田 知美



<Blog>
http://amoblo.jp/singer-tomomi-s
<Twitter>
https://twitter.com/Tomomi524
<家族Live情報>
7月25日
ひたちなか市「西原まつり 30回記念行事」
8月21・22日
ピアホールLive@龍息セントラルホテル

第24回（平成23年3月）卒業 皆神 陽太

佐和高校を卒業して音楽大学で4年間学んだばかりの未熟な音楽家ながら、母校の30周年を祝う式典で演奏させて頂けることはとても光栄であるとともに、自分にとって大変思い出深いものとなりました。ステージに立つと皆さんの様々な表情が見えましたが、その中でも生徒たちのまっすぐな瞳は特に印象に残っています。

30周年というと私よりも年上です。周りの学校に比べれば比較的若いのもかもしれませんが、私にとっては十分長い歴史のように感じます。

その長い時間の中で、学校がひとつの組織として形を保ち続けるのは簡単なことではないのでしょう。その組織と直接関わっている人、以前関わっていた人、その組織の今後を考えている人。いろんな立場の人々が入れ替わり立ち替わっていく中、誰かが誰かを慮る気持ちが絶えずそこに流れていることで初めて成り立つものなのではないかと思っています。

佐和高校にはそのようなサイクルが実在することに加え、この学校特有のカラーを強く持った校風があります。今後もその魅力を保ちながら、繁栄して、くれることを願うばかりです。



事務局だより

平成二十六年十一月七日に創立三十周年記念式典を開催致しました。その記念事業の一環として同窓会名簿を作成しました。

同窓会名簿は会員同士の繋がりを活性化させること、同窓会開催に役立つことを目的に作成しております。

作成にあたっては卒業時の情報、二十周年記念事業で作成した名簿を基に出来る限りの調査、確認を行いました。が、転居された方、「住所を掲載しない」と希望された方には案内が送付出来ない状態でありました。

事務局としましては、会員の方々の現住所を引続き調査して参ります。

職場、同じ学校、お住まいの地域、ご近所に同窓会からの連絡が届いていない方がいらっしやいましたら、佐和高校のホームページの「同窓会からのお知らせ」から様式をダウンロードして頂き、佐和高校事務局まで送付頂きたく、お願い致します。（送付の際の費用は負担いたたくことになりまますので、御了承ください。）

個人情報取扱いが難しい昨今ですが、同窓会幹事への開示、会報の発行、同窓会からの連絡以外には使用致しませんので、御協力お願い致します。

現在の学校の状況

茨城県立佐和高等学校 | <http://www.sawa-h.ibk.ed.jp/>
ホームページアドレス

平成26年度 進路決定状況 (2015. 3. 31現在)

進路分野	決定者人数			未定者人数		
	男	女	合計	男	女	合計
国公立大学	1	3	4	0	0	0
私立大学	51	56	107	0	0	0
国公立短期大学	0	1	1	0	0	0
私立短期大学	0	31	31	0	0	0
公共職訓	2	1	3	0	0	0
専門学校	看護系	0	7	0	0	0
	その他	11	35	0	0	0
就職	公務員	1	1	2	0	0
	一般企業	2	18	0	0	0
小計	68	153	221	0	0	0
未定・その他	8	5	13	8	5	13
合計	76	158	234	8	5	13

平成25年度 進路決定状況 (2014. 3. 31現在)

進路分野	決定者人数			未定者人数		
	男	女	合計	男	女	合計
国公立大学	1	2	3	0	0	0
私立大学	39	39	78	0	0	0
国公立短期大学	0	0	0	0	0	0
私立短期大学	0	22	22	0	0	0
公共職訓	6	0	6	0	0	0
専門学校	看護系	1	12	0	0	0
	その他	16	54	0	0	0
就職	公務員	3	1	4	0	0
	一般企業	0	19	0	0	0
小計	66	149	215	0	0	0
未定・その他	5	8	13	5	8	13
合計	71	157	228	5	8	13

部活動の活躍 (関東大会以上の出場)

平成25年度

吹奏楽部

第19回東関東吹奏楽コンクール 高等学校Aの部……銅賞

平成26年度

弓道部

〈第58回関東高等学校弓道大会 出場〉

男子団体……………県大会第3位

ト部恵輔 (3の1) 小林俊介 (3の2)

萩谷直人 (3の2) 高山智生 (3の3)

〈第33回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会 出場〉

東京都渋谷区 (明治神宮)

ト部恵輔 (3の1) 佐藤慧 (2の2)

〈第33回全国高等学校弓道選抜大会 出場〉

鹿児島県鹿児島アリーナ

佐藤 慧 (2の2)……………第1位

陸上部

〈関東高等学校陸上競技大会〉

神奈川県相模原市

神戸 巧 (3の2) 3000m障害……………県大会第5位

小関一平 (2の1) 走高跳び……………県大会第6位

〈第87回関東陸上競技選手権大会〉

神奈川県相模原市

神戸 巧 (3の2) 3000M障害

〈第18回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会〉

茨城県ひたちなか市

小沼祐希 (2の5) 走り高跳び……………県大会第1位

小関一平 (2の1) 走り高跳び……………県大会第5位

アーチェリー

〈第35回関東高等学校アーチェリー選手権大会〉

埼玉県南埼玉郡宮代町

仲野夏鶴美 (3の2)……………県大会第6位

吹奏楽部

〈第15回東関東選抜吹奏楽大会〉

神奈川県厚木市

【第38回 全国高等学校総合文化祭 いばらき総文2014】

箏曲部

日本音楽部門

牛久市中央生涯学習センター

吟詠剣詩舞同好会

吟詠剣詩舞部門 結城市民文化センターアクロス

朗読部

放送映像部門「朗読」 大場拓海 (3の4)

日立シビックセンター

総合開会式「総合司会」 大津竜平 (3の4)

つくばカピオ

美術部

美術・工芸部門 立体の部 梅川綾乃 (2の4)

茨城県近代美術館

平成26年度は、茨城で「全国総合文化祭」が開催されたため、文化部の活躍が例年より活発になりました。



編集後記

日頃より同窓会活動に御協力頂き、誠に有難う御座います。

同窓会会報「君の心・・・」第四号を会員の皆さまのお手元に届けられることを嬉しく感じております。

会報の発行にあたり、原稿執筆に御協力いただきました方々には、まだまだ編集に不慣れなために失礼もあったかと思ひます。心よりお詫びと感謝を申し上げます。

会報は同窓会会員に近況を報告出来る機会ですので、多くの方に登場していただきたいと考えております。

「我こそは」という方がいらっしゃいましたら事務局に一報を頂ければ幸いです。

発行にあたっては、なるべく多くの会員に届けたいという思いを抱いておりますが、行き届かない点もあるかと思ひます。次号以降、より多くの方々に届けられるよう努力して参ります。

何はともあれ、継続することが大切だと思います。何卒、今後も御協力頂き、十号、二十号と発行を重ねて、会員相互の「架け橋」となることを祈念して、編集後記と致します。

来年、平成二十八年度には総会を予定しております。皆様のご出席をお待ちしております。

